

## 2015 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 2 月 12 日作成)

小委員会名	環境心理小委員会	主 査 名：榎 究 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (環境心理生理運営委員会)	委員長名：羽山広文 主 査 名：西名大作
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>人間・環境系を総合的に扱う環境心理研究を発展させるための組織的取り組みを行う。</p> <p>具体的には、前身の小委員会で開催されてきた「環境心理チュートリアル」を継続的に開催すると共に、現在までの研究状況を整理し、今後取り組むべき課題および研究発展のための方策を検討して、実施する。</p> <p><b>初年度：</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 環境心理研究に資する情報の提供 (チュートリアル開催等)</li> <li>2) 交流活動の推進(公開研究会等)</li> <li>3) 研究状況の整理 (若手研究者の研究紹介等)</li> <li>4) 活動体制の検討 (環境心理研究発展の方向性の検討等)</li> </ol> <p><b>2-4 年度：</b></p> <p>初年度活動の継続</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	<p>主査：榎 究 (実践女子大学)、幹事：小島 隆矢 (早稲田大学)</p> <p>委員：上野 佳奈子 (明治大学)、大石 洋之 (㈱ジェイアール東日本建築設計事務所)、古賀 誉章 (宇都宮大学)、佐野 奈緒子 (東京電機大学)、高橋 浩伸 (熊本県立大学)、高橋 正樹 (文化学園大学)、辻村 壮平 (鉄道総合技術研究所)、長澤 夏子 (お茶の水女子大学)、西原 直枝 (聖心女子大学)、宗方 淳 (千葉大学)、渡辺 秀俊 (文化学園大学)、小崎 美希 (お茶の水女子大学)、宇治川正人 (東京電機大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p><b>チュートリアル運営 WG</b></p> <p>人間・環境系研究の実施に有用な知識を研究者に広めることを目的としたチュートリアルを企画・実施し、技術の普及および研究レベルの向上に貢献すること。</p> <p><b>環境心理研究手法 WG</b></p> <p>環境心理研究の質の向上に資する研究手法的な知見を収集・分析すること。</p> <p><b>かわいいと建築に関する研究 WG</b></p> <p>2015 年 3 月まで設置された「可愛い」を求める心と空間のあり方に関する研究 WG の成果を引き継ぎ、建築施設にかawaiiことの効果 (例：親近感、和み、癒し、他) を発揮させる適用方法の検討、およびその成果の普及活動。</p> <p><b>文化と環境 WG</b></p> <p>国・都市といった地域に根ざしたもからサブカルチャーや年代に根ざしたもので様々なコミュニティに着目し、人間-環境系の文化的側面を探索する枠組みの提案と事例の収集・紹介・調査を行う。</p>	
2015 年度予算	49,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	<p>環境心理小委員会：4 回 (年度内開催予定を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チュートリアル運営 WG：3 回 (年度内開催予定を含む)</li> <li>・環境心理研究手法 WG：2 回 (年度内開催予定を含む)</li> <li>・かわいいと建築に関する研究 WG：4 回 (年度内開催予定を含む)</li> <li>・文化と環境 WG：4 回 (年度内開催予定を含む)</li> </ul>
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	

講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. 第15回環境心理生理チュートリアル「アンケート調査の作法と技法 ～成功へのカギは調査計画の段階に～」 参加者数 会場：71名
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>十分な成果が得られている。</p> <p>1. チュートリアルの開催 (2015年9月7日)</p> <p>2. 公開委員会「建築人類学について」の開催 (2015年5月8日)</p> <p>3. かわいいと建築に関する研究 WG 複数回の見学会、講演会の実施による交流促進</p> <p>4. かわいいと建築に関する研究 WG デジタル機関誌「K・キューブ」の発刊 (年度内に4号まで発刊予定。PDF形式のものであるので、刊行物ではなく、こちらに記載する。)</p> <p>5. 評価グリッド法について総括する書籍の執筆計画を検討した。</p>
委員会活動の問題点・課題	

環境工学委員会用 自己評価欄

## 2014年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">A</span> B      C      D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>目標の達成度にも記載したが、十分な成果が得られている。</p> <p>1. チュートリアルの開催 (2015年9月7日)</p> <p>2. 公開委員会「建築人類学について」の開催 (2015年5月8日)</p> <p>3. かわいいと建築に関する研究 WG 複数回の見学会、講演会の実施による交流促進</p> <p>4. かわいいと建築に関する研究 WG デジタル機関誌「K・キューブ」の発刊 (年度内に4号まで発刊予定。PDF形式のものであるので、刊行物ではなく、こちらに記載する。)</p> <p>5. 評価グリッド法について総括する書籍の執筆計画を検討した。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。